



坂田黎一展
ギャラリートーク
と講演会



4月25日、坂田黎一展のオープニングの後、作品解説が行われ、30日には「私の作品」と題してギャラリートークが開催されました。作品に取り組む姿勢やテーマの持ち方、構図の練り方、技法の工夫など初心者にもわかるようユーモアを交えて解説しました。5月7日には「時空50年・限りなき挑戦」と題して、70歳を超えた現在もなお、エネルギーに挑戦し続けている先生の生き方の一端が披露され、聴講者一同、深く感銘を受けました。

展覧会

第6回養護学校
三校合同作品展

- ◆期間 6月20日(火)～7月2日(日)
- ◆休館日 6月26日(月)
- ◆観覧料 無料

松橋養護学校、松橋西養護学校、松橋東養護学校の3校の幼児児童生徒の作品展です。授業で制作した絵画や作文・詩などの作品のほか、作業学習の製品なども出品します。また、制作風景や学校生活の様子などの紹介も併せて行います。3校の特色や養護学校の教育について、地域の皆さんに知っていただく機会にしたいと思います。一人でも多くの方のご来館をお待ちしています。

展覧会情報 ※6月12日(月)～19日(月)は清掃のため休館します。

会 期	展覧会名	観覧料
6 / 4 (日) まで	高巢典子展	無 料
6 / 6 (火)～6 / 11 (日)	第2回リハビリ動創生の会 絵画クラブ作品展	無 料

自主クラブ追加募集

美術館のアトリエでは、講座のほかに自主クラブでの作品制作も行われており、下表のように募集しています。会費はクラブによって多少異なりますが、月1000円～2000円です。多数の参加をお待ちしています。

クラブ名	曜 日	時 間	募集人数
木版画	第1・3土曜	13:30～	5人
俳 画	第2・4土曜	13:30～	5人
油 絵	第2火曜	14:00～	5人
きり絵	随 時		5人



10年前に読みましたか？
振り返るベストセラーこの10年

今から10年前は、阪神大震災、地下鉄サリン事件が立て続けに起き、また戦後50年の節目の年ということで、各分野にわたり戦後の検証が行われた年でもありました。

そして、最近では『陰日向に咲く』（劇団ひとり／著）、『国家の品格』（藤原正彦／著）などに人気があり、中でも『東京タワー』（リリー・フランキー／著）は、予約待ちの人数が多く根強い人気となっています。

ベストセラーやロングセラーを長い目で見てみると、子どもが支持したもの、その年の話題性や経済状況、人としての生きる指針など、その時代の背景が見えてきます。

ここ10年間のベストセラー

1位、2位の順に書名・著者名を記載しています

1995年	『ソフィーの世界』J・ゴルデル 『フォレスト・ガンプ』W・グルーム
1996年	『脳内革命』春山茂雄 『「超」勉強法』野口悠紀夫
1997年	『失楽園』渡辺淳一 『少年H』妹尾河童
1998年	『大河の一滴』五木寛之 『幸福の革命』大川隆法
1999年	『五体不満足』乙武洋匡 『日本語練習帳』大野晋
2000年	『だから、あなたも生きぬいて』大平光代 『ハリー・ポッターと賢者の石』J・K・ローリング
2001年	『チーズはどこへ消えた?』スベンサー・ジョンソン 『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』J・K・ローリング
2002年	『生きかた上手』日野原重明 『声を出して読みたい日本語』斎藤孝
2003年	『バカの壁』養老孟司 『世界の中心で愛をさけぶ』片山恭一
2004年	『世界の中心で愛をさけぶ』片山恭一 『バカの壁』養老孟司
2005年	『頭がいい人、悪い人の話し方』樋口裕一 『さおだけやはなぜ潰れないのか?』山田真哉

参考文献：『出版年鑑2005』 出版ニュース社

Book Information ～話題の本紹介～

オンリーワン

野口聡一：著 新潮社

地球はやっぱり青かった。「宇宙戦艦ヤマト」への憧れと、偶然手にした宇宙への切符。平凡な生活を変えた夢の果てには一。生い立ちからはじめ、宇宙飛行士への候補生として認定されてから旅の実現までを語る、宇宙を翔けた冒険譚。



盾（シールド）

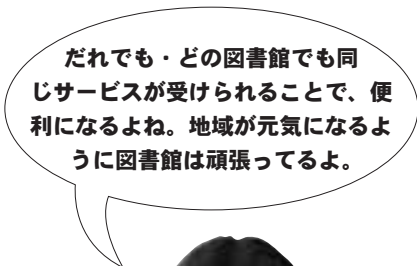
村上龍：著 はまのゆか：絵 幻冬社

仲良しだったコジマとキジマ。やがて2人は別の道を歩むようになるが、幼いころ森に住む老人に聞いた「盾、シールドが必要だ」という謎の言葉は決して忘れなかった。不安と希望を合わせ持つすべての人に贈る、心温まる物語。

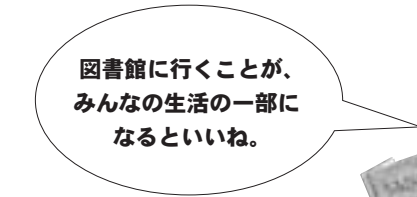


開 館 時 間
10:00～18:00
(土・日は17:00まで)

休 館 日
月曜（祝日と重なる場合はその翌日）・第3金曜・毎月末日（月曜と重なる場合はその翌日）・年末年始



だれでも・どの図書館でも同じサービスが受けられることで、便利になるよね。地域が元気になるように図書館は頑張ってるよ。



図書館に行くことが、みんなの生活の一部になるといいね。